

第1回リノベーションスクール@やつか(以下、「リノスク」)の修了生を代表してユニットBの伊藤芳明さん(左手前)、浅野明日香さん(左手奥)、園分隆さん(右手前)とユニットマスターの織戸龍也さん(右手奥)に集まいただきました。スクールを通してメンバーそれぞれの心境にどのような変化があったのか、や今後の展望について語っていただきました!



ユニットマスターって?

ユニットの議論を引っ張ってくれる先生のような役割をしてくれる人で、全国各地でまちづくりの実践者として活躍されている方々。織戸さんは東京都北区の赤羽岩淵で家守として活躍されています!

talk1 リノスクを振り返ってみる

リノスクを終えてみて率直な感想を教えてください!

伊藤:やつかで不動産業をやっている身として、空き店舗を減らしたいと思っていて、テナントを誘致することが当事者としての役割と思っていましたが、スクールに参加してみて違うことがわかりました。**他人事からジブンゴトへと考えが大きく変わりましたね。**

園分:草加駅東口のリノベーションまちづくりによる変化を見てきた一住人として、自分も生み出す側になっていきたいという思いを持っていました。**仕組みを創り出す当事者になることで変化を生み出す存在になりたい**と思っていましたが理想に近づけたんじゃないかなと思っています。

浅野:私はパーソナルストレッチの仕事をしているんですが、草加に戻って仕事がしたいと思っていました。人と繋がる経験もしてみたかったし、繋がりを生み出す側にもなってみたかった。古い建物をリノベーションしてお店を持ちたいとも思っていました。なのでリノスクはチャンスだと思って参加しました。ユニットとして活動していく中で生まれたメンバーややつかの方々との繋がりが、自分を支えてくれる、とても大きな存在になったと今は思うようになりました。

リノスクを終えて、やつかというまちの見え方、皆さん自身に変化はありましたか?

伊藤:職業柄、今まで古い建物は壊して新しい建物を建てる考えしかなかったのですが、**そこにあるストーリーや想い、過去の風景も捉えて考えるようになりましたね。**そして改めてまちへの愛着が湧きました。まちが自分の敷地のような感覚。今まではやってなかったんですが自分のお店から駅の方にかけて毎朝掃除するようにになりました。嘘じゃないですよ(笑)。

園分:僕は元々出身が市外で大学から草加に出てきました。草加は地元という認識はないけど何となく愛着があるまち。だけど、ご近所づきあい、ましてや草加の人と関わることはなかったんです。このユニットはほ

とんどが草加の人。ご近所さんができたような感覚です。リノスクが終わってからは生活のリズムが変わるくらいにご近所さんのようなユニットメンバーと密接な関係が築けていることが大きな変化ですね。

浅野:谷塚駅周辺は何もないと思っていましたが、今は自分の家族や友だち、大切な人に紹介したい場所になりました。エリアを知っていく中で自分の好きがたくさん詰まっている場所になりました。実はやつかで仕事の新たな拠点を持つことも検討しています。

talk2 リノスクでの変化とこれからのについて

リノスクの最中やリノスクの後に心境や考え方が変わったと感じたことはありましたか?

園分:リノスク後、「まちづくりに対する解像度」が上がったと感じましたね。**個店ができて盛り上がればまちづくりであると思ってましたが、点ができてそれらが繋がって線になり、面になっていく。**エリアリノベーションという感覚はリノスク参加前はなかった感覚です。

浅野:リノスク後にあんなことしてみたい、自分にはこれができるんじゃないかと色々と思いつくようになりましたね。これはユニットメンバーを信頼してるからだと思っています。**必死になれる自分に出会えたことが変化かもしれません。**

織戸:このユニットはみんなが何かしらの形で関わっていることがとても嬉しいですね。まちづくりはお金じゃない部分が多いかもしれないです。巡り巡っていつかは返ってくるかもしれない。それに対して時間を割くというのはとても覚悟があること。**まちに変化が見えてまちづくりが楽しくなってくると、この喜びを他の人にも共感してほしい**

と考えるようになります。共感の輪が広がっていくんですね。そうすると経済循環も生まれてきて地域に好循環が生まれます。

これからまちの当事者として、「家守」としてどうありたいと考えていますか?

園分:僕のまちづくりへの想いは変わっていないです。今回の対象案件から盛り上げていって、谷塚駅西口の中で定義づけたエリアに変化をもたらしたい。その効果を草加全体へと広げ、ゆくゆくは家守のベンチマークとなるような存在になれればいいなと思っています。

伊藤:家守会社として「やつかの遊休不動産、公共用地を活用して商店街ににぎわいを取り戻し、寝に帰るまちから、住む人が誇りに思えるまちを目指す」ことをビジョンとして掲げたいと思っています。その取り組みの第一弾として今回の対象案件がみんなの目的地となるような場所にしたいと思っています。楽しい思い出を作ってもらって、ずっと住みたいと思ってもらえる場所を提供し続けられる存在でありたいと思っています。

織戸:皆さん素晴らしいコメントをいただきありがとうございます。これからは家守の同志としてまちづくりを行っていく仲間です。力を合わせていきましょう!



第1回リノベーションスクール@やつか ユニットBメンバー